

令和2年度 第1回庄内支部勉強会 活動報告

テーマ「多職種での関わりで目指す在宅復帰と理学療法士の役割について」

日時：令和2年11月12日 19:00～20:30

会場：日本海酒田リハビリテーション病院

「多職種の関わりで目指す在宅復帰と理学療法士の役割について」をテーマに、日本海酒田リハビリテーション病院にて第1回庄内支部勉強会を開催しました。同一症例の各期の理学療法について、大沼侑太郎先生（本間病院、佐藤頭恵先生代読）、小松沙織先生（介護老人保健施設ひだまり）、矢島慎也先生（介護老人保健施設うらら）から報告していただきました。参加者は25名でした。

今回の勉強会では、同一症例の急性期から生活期における経過を辿り、担当者より介入時の様子や課題を報告の後、参加者による意見交換を行いました。主に生活期での経過に着目し、施設入所から独居での自宅退所に至った症例に関して後方視的に振り返り、理学療法士として必要な関わりについて多面的に検討しました。個別のリハビリメニューのみでなく、施設での生活場面で行うことができる動作訓練や他職種との連携、自宅の見取り図や生活習慣を考慮しながらの家屋環境調整や福祉用具の検討など、症例の生活を具体的にイメージしながら検討を進めました。例年はグループディスカッションを行っていましたが、今回は感染予防のため、個人で考える時間を設けてから発表形式で情報交換を行いました。また、矢島先生からは老健の現状、区分についてのお話もしていただきました。

感染対策を整えた中、少人数での開催となり例年と異なる状況でしたが、久しぶりに顔を合わせて勉強会を開催できたことに嬉しさを感じました。来年度以降も状況に合わせて勉強会を企画していきたいと考えております。発表者の先生、ご参加いただきました先生方、ありがとうございました。

（文責：長谷部裕美）

